

「せとうち・海の道」モニターツアー

外国人向けの旅行企画「せとうち・海の道」のモニターツアー（せとうちDMO主催）が2月17～28日、内子町を含む瀬戸内地域の7県で行われました。昨年の11月から事業者と自治体が連携し、7県で31件の企画を考案しました。今回は、国内外の旅行会社で働く女性4人に体験してもらい、企画を磨き上げることで、旅行商品化を目指します。



1_参加者が「面白い」と熱中した升づくり体験 2_ギルディング和紙などが人気。大量に購入する参加者も

内子町では27日、「伝統技術と革新」をテーマに、天神産紙工場や千代の亀酒造などを訪問。工場内や商品を見学したほか、「うちこの和」で升づくりの体験をしました。アメリカから参加したララ・ボントウヤンさんは「升づくり体験は素晴らしい。顧客が興味を持つ酒蔵見学を工夫すれば、もっと良くなる」と期待を寄せました。

地域に貢献できる人材を目指して 小田高校と地域住民の「特別講座」

地域を担う人材育成に取り組み小田高校が3月6日、2年生を対象とした「スペシャルセミナー」を開きました。6つのグループに別れた生徒は、内子町森林組合や(株)藤岡林業など、校外の講師6人からミニ講座を受講。「内子町の森林

資源をどう活かすべきか」をテーマに討論しました。生徒からは「観光や6次産業化など、森林資源への多様な関わり方がある」「林業の格好良さを映像で伝えたい」などの意見発表があり、地域の取り組みや産業に理解を深めていきました。



「森林資源と林業の機械化」をテーマに話す(株)藤岡林業の藤岡雄二さん

差別のない心豊かな町を目指して 「人権・同和教育研究大会」を開催



「困っている人に声をかけよう」と呼び掛ける大野倭汰さん(天神小)

「内子町人権・同和教育研究大会」(町人権教育協議会他主催)は3月3日、文化交流センタースバルで開催されました。はじめに小中学生4人が人権メッセージと作文を発表。小田小6年の二宮菜希さんは「人はそれぞれ違うんだ」と声高々

に述べ、内子中3年の沖野文華さんは手話を通じた交流と体験を発表しました。講演会では「反差別・人権研究所みえ」の松村元樹さんが、インターネット社会の人権をテーマに、問題が複雑化・陰湿化する部落差別の現状と、その根絶を訴えました。

「ふるさとCM大賞えひめ」でPR 内子女子の強さとあでやかさを

「ふるさとCM大賞えひめ2018」(愛媛朝日テレビ主催)の審査会が3月11日、松山市総合コミュニティセンターで開催されました。内子町からは内子CM制作委員会が、「内子女子募集中」で参加しました。相撲クラブの子どもたち

と地域おこし協力隊の清水香奈さんが出演。全日本小学生女子相撲大会で準優勝した大野春陽さんが、清水さんが企画した「あでカワプロジェクト」で着物美人に変身するという内容です。作品は4月から愛媛朝日テレビで年間5回放送されます。



大野春陽さんのがちかましに驚く司会のためらけんじさん

木のぬくもり溢れる新園舎が完成 大瀬保育園の落成記念行事

「大瀬保育園新築工落成記念行事」(内子町社会福祉協議会主催)が3月23日、大瀬保育園の新園舎で行われました。神事では、神岡道明宮司が「大瀬の大自然に抱かれて、子どもたちが清く正しく元気に育つように——」との願いが込められた祝詞を読み上げました。その後、完成見学会が行われ、参加者は森美紀園長の説明を受けながら、真新しい園舎を見

学しました。園児用に作られた小さな設備に、「かわいらしい」との声が上がっていました。新園舎は延べ床面積約608平方メートルの木造平屋建て、総建設費用は2億8440万円。大瀬小学校と同じく、成屋地区の景観に配慮したデザインです。木材の9割に内子町産材を使用し、木質ペレットの床暖房を設置した、木のぬくもり溢れる園舎になっています。



小田支所で目録を渡す環境委員長の高岡優芽さん(右)

私たちにも何かできることを—— 小田中学生が熊本県へ義援金

熊本地震の被災者へ義援金を届けるため、小田中学校の生徒代表・高岡優芽さんが3月14日、小田支所を訪れ、大森豊茂支所長に目録を手渡ししました。義援金の取り組みは生徒たちの発案。環境委員会がアルミ缶を回収して

得た収益金です。高岡さんは「私たちの在学中に起きた大きな災害。復興が半ばと聞き、少しでも役に立ちたいと思った。小さな学校だけど、人のためにできることはある。在校生にも、このような活動を続けてほしい」と思いを語りました。



1_ 天気にも恵まれた記念行事。新園舎前で神事が執り行われた 2_ 完成したばかりの園舎内を見学する参加者たち